

第2回岐阜県博物館協会企画委員会 議事録

日 時：平成30年1月30日（火） 15:00～18:00

場 所：岐阜大学サテライトキャンパス（岐阜スカイウイング37）

出席者：若宮会長、小野専務理事、可児委員長、正村もの部会長、岡田ひと部会長、説田こと部会副会長、須山岐阜ブロック部会世話人、原田西濃ブロック部会世話人、長沼中濃ブロック世話人、砂田東濃ブロック部会世話人、日比野（事務局）

1. あいさつ

若宮会長よりあいさつ

2. 今年度事業の実績（事業と決算見込み）について（各部会より） 及び

3. 新年度の計画について（各部会より）

もの部会

- ・今後の予定としては、2月8・9日に、日本博物館協会研究協議会に2名出席予定。テーマは「博物館の危機管理～防災と博物館～」。
- ・3月6日は三輪嘉六氏による公開講演会として「『もの』から始まる博物館」を開催する。講演会後は、協会員に関わらず参加してもらおう懇親会を行う予定。
- ・次年度は他県の美術館や博物館が実施する防災訓練への参加も考えている。

ひと部会

- ・会員研修会を1月31日に行う。SNS等、広報について最新の情報を知りたいと考え、徳川美術館の方に講師をお願いした。
- ・3月9日に今年度第2回目の会員研修会を行う予定。ミュージアムグッズに関して、雑誌『ミュゼ』の山下氏に講師をお願いした。ワールドカフェ形式で行う。
- ・次年度の研修会については、部会員としての参加者が少ない飛騨と西濃地区で開催したいと考えている。次年度の予算は今年度と同様に進められればと思っている。

こと部会

- ・機関紙の182号は3月に発行予定で、現在原稿を依頼したところ。
- ・協賛企業のロゴをHPに掲載した。
- ・HPのスマホ対応には26万円程度かかる。
- ・研究助成費の予算は、今年度は不執行とする。
- ・協会事業に使用するのぼりを作成する。10本で5万4千円。講演会や公開講座で、協会の存在感を出すために使用することとする。

岐阜ブロック部会

- ・ 12月11日に行った金華山・長良川うかいミュージアムでの地域自然学習会は10名が参加。1月29日に行った、笠松町歴史未来館の施設見学会は14名が参加。
- ・ イベントチラシはインターネットチラシで作成したら、300部を1万円程度で安くできた。チラシが目について参加してくれた人もいた。
- ・ 3月に加盟館で情報交換会を実施する。
- ・ 岐阜ブロック部会の **Facebook** を開設した。
- ・ 来年度も、負担にならない程度にやっていきたい。一般の方も参加するイベントを年2回、加盟館会員の参加する情報交換会を年2回開催する予定。

西濃ブロック部会

- ・ 11月25日に第1回の会議を行った。年度末で部会員が多忙なこともあり、来年度に具体的な事業を行っていく。
- ・ 未加盟施設とも交流を図りながら活動していきたい。

中濃ブロック部会

- ・ 12月5日に郡上市歴史資料館を見学したが、とても立派な施設だった。今後、オープン前や運営の段階でも見学させてもらい、学んでいきたい。
- ・ 1月26日に九州保健福祉大学の山内准教授を講師として公開講座を開催したが、手ごたえを感じられるものであった。40名程度が参加。今回のように、博物館関係者だけでなく、福祉分野など他分野にまたがる内容で、一般県民向けに実施出来ればと思う。
- ・ 来年度は、引き続き、互いの博物館の視察を含めた情報交流を行う。テーマ性を意識した視察を行い、一般向けが可能なものについては検討していく。

東濃ブロック部会

- ・ 東濃地区博物館等連絡協議会との住み分けをどうするのか今後考えていく。
- ・ まずは周辺施設の見学会を行っていきたい。

〈質問・意見等〉

小野専務理事

- ・ ひと部会の第2回目の研修会が参加型なので、ぜひ協賛企業のロゴを入れて欲しい。地域ブロック部会で行うイベントについても、ぜひお願いしたい。

可児委員長

- ・ 会員館へのメールは、個人の学芸員まで届かないことがあるので、今後は、部会員個人のメーリングリスト宛にも、事務局からメールを送って欲しい。

岡田ひと部会長

- ・部会では、ルールや予算、組織という話より、まずは人が集まることが大切。

可児委員長

- ・現場の会員同士で声を掛け合うことが重要。その人たちが考えたことが実現することに意味がある。

須山岐阜ブロック部会世話人

- ・部会立ち上げ当時、各館の参加に対する積極性はまちまちであったが、イベント会場としての利用などを通じて、管理職の方々とも良好なコミュニケーションを図ることが出来た。

3. 「地域ブロック部会活動費交付要綱」「研究助成費助成要綱」について
特に意見無し

4. 協会全体の新年度事業について

総会・県民文化講演会について

- ・5月の下旬ごろの平日開催を予定として進めていく。
- ・総会では、現場の声として部会員の発言もあった方が良い。実施予定事業など。
- ・講演会のあとに、岐阜大学で開催した「汚染資料の洗浄」のワークショップを、総会参加者、一般の来場者を含めて行ってはどうか。もの部会が次年度開催の予定だった W.S.だが、広く博物館職員から一般まで参加してほしいし、博物館協会の活動を知らせる良い機会になる。
- ・講演会も合せて、資料の保存、ミュージアムレスキューに関する内容で検討する。この話題は博物館協会しか出来ないものだと思う。タイムリーな話題であり、それを県民向けに実施する。加盟館も来てもらいやすい話題である。
- ・講師は、岐阜大学でも講師をしている神戸大学の松下先生にお願いしてはどうか。阪神淡路、東日本大震災の双方にも対応された方。
- ・講演会のチラシは、キャッチコピーを工夫して、良いものができるといい。
- ・総会後のワークショップについては、一般の方向けなら、写真をどのように修復するかという内容でも可能だと思う。一般向け、学芸員向けと、2つの切り口があっていい。
- ・場所については、県博物館だけでなく、メディアコスモスも検討する。(のちの雑談のなかで、岐阜駅構内のスペースも検討する案がでる)

地域ブロック活動について

- ・各地区のブロック部会内で連携し、地域のお宝を持ち寄って展示し、最終的には県

博物館で総集編を行うのはどうか。また、ブラタモリのように、学芸員が外に出て地域を解説し、地域の方に歴史や文化を知ってもらうというのはどうか。

- ・展示で連携を行うのは、50周年記念の際の街道ネットワークでも、半年以上前から準備を行っている。加盟館の間での調整や、館内の了解、もの集めなど、大変なことが多く、時間も要するので難しいのではないか。ブラタモリのような単発的、個々の学芸員で判断できる案なら可能と思う。
- ・来年度は、各地域ブロック部会でブラタモリを参考としたイベントを企画することとする。3月に予定している協賛企業の訪問で、概要を説明し、今後も協賛を続けていただけるようにPRする。

東海三県博物館協会研究交流会

- ・来年度は岐阜県が開催県。飛騨地域で実施したい。企画委員会のメンバーにも参加してもらいたい。

5. その他

若宮会長

- ・3月に開催する理事会には、各部会の責任者にも出席してもらい、話をしてもらうこととする。

以上